

戦争に向けた農地取り上げを許さない署名です



AとBが取り上げ対象とされた畑。市東さんの耕作面積の73%で、作業場などの営農手段も含まれます。もし奪われたら、農家を続けることができなくなります。



産地交流で集まった消費者の皆さんに作物の生育状況を説明する市東孝雄さん（成田市天神峰）

かけがえのない100年耕作の畑

問題の畑は、成田市の専業農家・市東孝雄さんの祖父が開墾し、100年に渡って耕作してきた農地です。戦後の農地改革で手続きがなされず、形の上では小作地ですが自作地と同等の、市東さんが胸を張って「私の畑」と言える農地です。

市東さんは有機・無農薬栽培で年間60種類もの野菜をつくり、地元をはじめ多くの消費者の命を支えています。農地は私たちの命です。

必要なのに強制収用？

空港会社（NAA）は1988年、この畑の底地を市東さんに内緒で地主から買収しました（実は農地法違反）。そして2003年になって突然、「小作権を解約して引き渡せ」と明け渡しを求めてきたのです。

2006年、空港会社の明け渡し申請に千葉県知事は許可決定を下しました。“従わなければ裁判で強制的に取り上げる”という決定です。

しかし、農地を取り上げる必要など何もありません。NAAは「誘導路をまっすぐにするため」と言いますが、誘導路が曲がっていても「問題ない」と建設を強行したのはNAAです。現在もなんの支障もありません。

真のねらいは軍事空港化

では、なぜむりやり農地を取り上げようとするのでしょうか。私たちの「空港反対」の闘いがじゃまだからです。

成田では今、「B滑走路の1000m延長」や「第3滑走路計画」、「24時間空港化」が叫ばれています。NAAや航空会社、大企業の金もうけのために、地元住民を無視して、ふたたび空港を拡張しようというのです。

そして、私たちが「戦争反対」を掲げているからです。

空港拡張の真のねらいは軍事です。日米安保のガイドラインでも、民間空港は有事における重要な拠点に位置づけられています。とりわけ4000m滑走路を持つ成田の拡張は、戦争に向かう安倍政権の動きと一体です。

農地を守り戦争とめよう

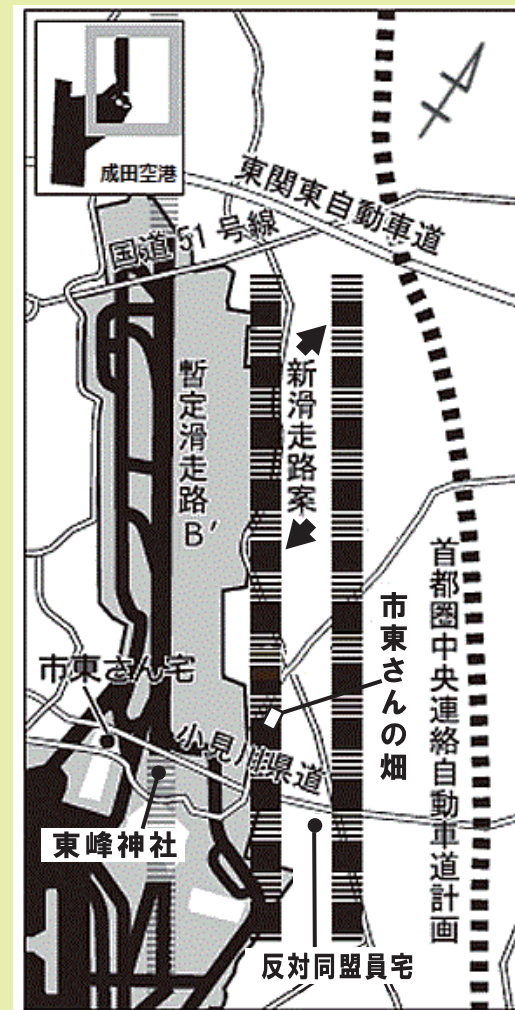
地域住民の生活や健康と空港拡張はあいりません。ましてや、戦争のための農地取り上げは、絶対に認められません。市東さんの農地を守る闘いは、戦争に反対する闘いです。

私たちは、NAAの言いなりに農地取り上げを認めた1審・不当判決をくつがえすために、現在控訴審を闘っています。

ところが3月4日、東京高裁・小林昭彦裁判長は証拠・証人調べを行うことなく、突然審理を打ち切りました。裁判所が国の言いなりになる「国策裁判」です。

こうした「国策裁判」を打ち砕き、農地を奪う判決をはばむために、3万人署名にご協力下さい。

成田第3滑走路想定図



国土交通省が検討している成田第3滑走路の想定図。大規模な住民追い出しと土地取り上げが不可避であるにもかかわらず、地元には何の相談もありません

この地で生きていきたい

市東孝雄さん



B滑走路の誘導路が曲がっているといたって飛行機は飛んでいるじゃないですか。何の不都合もないし、「効率が悪い」なんていうこともないんです。結局、私を追い出すことだけが目的なんです。

私はじいさんの代から続いてきた農業を天神峰の地で続け、その生きがいを大事にしていきたい。お金の問題じゃないんです。

この15年の間に国・空港会社の醜い姿をいやというほど見せられてきました。「公共性」を掲げれば、何でも押し通すことができているのです。沖縄や福島と同じです。

49年間、国家権力と闘い続けた三里塚は「勝たなくちゃいけない」と強く確信しています。応援して下さい。



(写真は千葉日報から)

旅客機が翼を滑走路に接触させるあわやの事故。(4月3日) LCCに頼る利益優先の安全無視は、必ず重大事故につながります